

# 道産木材の地産地消を目指した地域で供給可能な建築システムの提案

## 背景

- 「循環型社会」を形成するためには、建築分野における道産木材の利活用を積極的に進めることが重要です。
- 「道産木材の活用」を推進するために、地域の森林資源の状況や技術者不足を考慮した建築システムの開発が必要です。

## 成果

### 1 木材利活用事例の実態把握

#### ●実建物調査

- 梁スパン7m以内では軸組構法が多く、7m超ではフレーム構造が有効である。
- フレーム構造は地域供給が困難な現状。

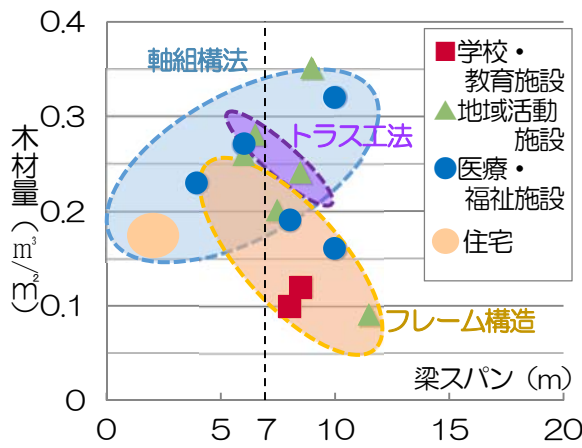


図1 建物用途、木材量と構法の関係

#### ●ヒアリング調査（事業者等） 浮かび上がった課題

- コスト
- 専門技術者（設計施工）の不足
- 材料の安定供給

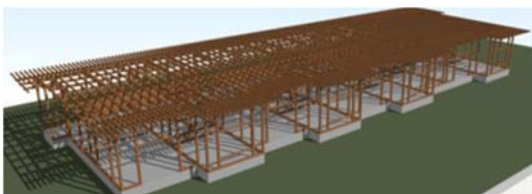
#### 調査により得られた視点

- ①地域の木材の調達・加工・流通ルートに配慮した提案
- ②小スパンは軸組構法で対応
- ③大スパンには、地域で供給可能な建築システムを提案  
→本年度検討予定

### 2 地域で供給可能な建築システムの提案（大樹町公営住宅）

#### ● 梁材の標準モジュール化

- 梁断面寸法を9種類から4種類へ集約し、標準化



※標準モジュール：部材の寸法を必要最小限の種類に集約して標準化した部材の寸法体系

#### ● 町産材『柱・梁（標準モジュール）』の利用とその導入効果

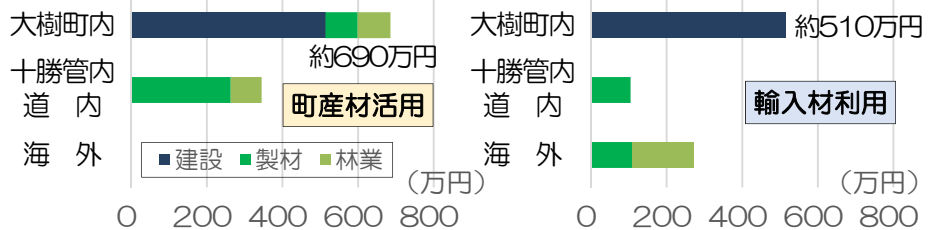


図2 道産木材使用による地域経済効果

- ・梁材の標準モジュール化による原木調達、製材生産の効率化
- ・大樹町内へ還元される経済効果の見える化
- ・本システムを用いた木造公営住宅が本年度完成予定

#### 期待される効果

- 地域の人・資源で供給可能な建築システムにより、道産木材の活用が促進されます。
- 道産木材利活用による循環型地域産業を構築します。